

## 第〇学年 〇〇科学習指導案

令和〇年〇月〇日（ ）校時  
〇〇〇立〇〇〇学校〇年〇組  
授業者 〇〇 〇〇

教科によっては、題材名となる場合があります。  
例：音楽、美術、技術家庭等

### 1 単元名(題材名) ※教科書のページ・出版社等も明記

### 2 単元(題材)の目標

- |     |   |                |
|-----|---|----------------|
| (1) | 学習指導要領における各学年の目標や内容、学習指導要領解説を踏まえて設定します。 | (知識及び技能)       |
| (2) |   | (思考力、判断力、表現力等) |
| (3) |   | (学びに向かう力、人間性等) |

### 3 単元(題材)について

#### (1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領の第3学年「A数と計算」(4)除法に関わる内容であり、除法に関わる数学的活動を通して、「数量の関係に着目し、必要に応じて具体物や図などを用いて計算の仕方を考察する力」等の資質・能力の育成を目指している。具体的には、・・・・・・

- ①本単元(題材)で身に付けさせたい資質・能力を明確にします。
- ②学習指導要領のどの内容を受けて設定した単元(題材)なのかを明確にします。
- ③単元の教材分析や素材の魅力(体育・保健体育科については運動の特性)について記述します。
- ④本時との関連についても記述します。

#### (2) 児童(生徒)観

本学級の児童は、諸学力調査等の結果から「A数と計算」領域においては、〇〇〇に課題が見られる。△月に実施した授業アンケート調査においては、□□□の項目で肯定的な回答が△%であり、概ね満足できる状況であるが、〇〇〇の項目では肯定的な回答が△%と課題が見られる。

また、日常の授業においては、・・・・・・

- ①本単元(題材)の学習に直接かわる児童生徒の実態を評価の観点等から考察します。音楽、図工・美術については、単元・教材によって一つの領域に重点化するのか、あるいは他の領域に加えて複数領域にするのかを決めます。「主体的に学習に取り組む態度」は教科の好き嫌いではありません。自らの学習状況や学習の進め方(学び方)について、粘り強く試行錯誤する等自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。
- ②事前調査の結果をそのまま載せるだけでなく、日頃の観察を含めて、児童生徒の学習状況を本単元(題材)の目標に照らして考察します。
- ③今までの学習で身につけている資質・能力を記述します。また、課題や不十分な点についても記述します。

#### (3) 指導観 ※ICT(1人1台端末)等の活用も含む。

本単元では、上記の教材観及び児童観を踏まえ、〇〇〇の資質・能力の育成を図るために、・・・・・・

- ①本単元及び本時で身につけさせたい資質・能力を育成する手立てを具体的に記述します。(単元の指導方針や教材分析、学習形態、ICTの活用、個別最適な学びの視点など)
- ②(1)「教材観」、(2)「児童(生徒)観」と対応させて記述します。
- ③課題研究に係る検証授業の場合は、研究内容と研究方法との整合性を図ります。

各教科の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（以下、参考資料）第3編と巻末資料を参考にして記述します。以下は算数の例です。

#### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ②除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。 ③割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。	①除法が用いられる場合の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。 ②余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。	①除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて考えようとしている。 ②除法が用いられる場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。 （「わり算探し」など）

#### 5 単元の指導と評価の計画(10時間)

時	ねらい(◎)・学習活動(■)	評価規準 (評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 2	◎余りがある場合でも除法を用いてよいことや、答えの見つけ方を具体物や図などを用いて考える。		・思① (行動観察、ノート分析)	・態① (行動観察、ノート分析)
3	◎余りがある場合の除法の式の表し方や、余りなど用語の意味を知る。 ◎余りと除数の関係を理解する。 ■余りと除数の関係を調べる。	・知① (ノート分析) ・知③ (ノート分析)		
4 本時	◎等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるかを考える。 ■等分除の場面で、答えの見つけ方を考える。		○思① (行動観察、ノート分析)	
5	◎余りがある場合の除法計算について、答えの確かめ方を知る。	・知② (ノート分析)		
6 7	◎日常生活の場面に当てはめたときに、商と余りをどのように解釈すればよいかを考える。 ■商に1を加える場合や加えない場合についてそれぞれ考える。		・思② (行動観察、ノート分析)	○態① (ノート分析)
8	◎学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。(章末問題)	・知①②③ (ノート分析)		
9	◎学習内容の定着を確認する。(評価テスト)	○知①②③ (評価テスト)	○思② (評価テスト)	
10	■学習内容を適用して除法の問題を考えたり、解決し合ったりする。			○態② (ノート分析)

上記の「単元の指導と評価の計画」は算数の例です。

①形式も含め、各教科の参考資料の第3編と巻末資料を参考にして記載します。本時は太枠で囲みます。

②ねらいは、本時で身につけたい資質・能力を明確にして記述します。

③「記録に残す評価」は、単元の中の適切な場面に設定し、評価の機会は精選します。

## 6 本時の学習 【4/10 時間】

「5 指導と評価の計画」の本時のねらいと整合性を図ります。

### (1) 目標

○等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるかを考える。

### (2) 授業の工夫・手立て ※ICT(1人1台端末)等の活用も含む。

①

ねらいに迫るための手立てや工夫した発問、指導方法、学習形態等を具体的に示します。

②


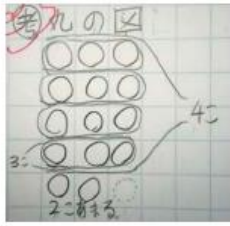
例①：～に着目させることにより、～に気づくことができるようにする。

例②：～と問うことで、～について考えることができるようにする。 例③：～を用いることで、～できるようにする。

### (3) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点 予想される児童(生徒)の反応・評価規準
導入 ( ) 分	1 問題把握  学習活動の項目は、各教科の特性に合わせて設定します。	予想される児童(生徒)の反応(発言、考え、姿等)を具体的に記述します。
展開 ( ) 分	2 めあて・見通し  [ ]	予想される「めあて」を記述します。
	3 自立的な活動(自力解決)  4 協働的な活動(比較・検討)	【予想される児童(生徒)の反応】  「努力を要する」状況と判断される児童(生徒)への支援や個に応じた指導の手立てを具体的に記述します。  【「努力を要する」状況と判断される児童(生徒)への支援】  「5 単元の指導と評価の計画」の評価規準と本時の評価規準との整合性を図ります。
終末 ( ) 分	5 まとめ  [ ]	
	6 適用問題  7 振り返り	終末には、教科の特性に合わせて、「めあて」と正対した「まとめ」や「振り返り」、「適用問題(評価問題)」を入れる等、本時のねらいの達成に向けて、児童(生徒)が学習内容や学び方を確認する活動を設定します。

(4) 「概ね満足できる」状況の具体例

概ね満足できる状況(B)	児童(生徒)の学習状況	具体的な姿や記述例
<p>除法が用いられる場合の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。 (行動観察、ノート分析)</p>	<p>等分除の場面でも余りがある場合の除法が適用できることを、ブロックや図を用いて表現している。</p>	<p>例：自力解決の場面(評価場面)でブロックを操作しながら余りがある場合の除法について考えたり、ノートに図(○)を用いて表現したりしている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【ブロック操作】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【ノートの記述】</p> </div> </div>

上記は、算数科における「思考・判断・表現」の評価の例です。  
 単元及び本時の評価規準を踏まえて、「概ね満足できる」状況とはどのようなものか、児童生徒の姿や考えの記述等を具体的に想定して記述します。  
 評価を見取る視点として、キーワードを想定しておくことも考えられます。

(5) 板書計画

事前に板書した写真等を添付しても構いません。

※教科の特性を踏まえて、「場の設定」や「準備物」等について必要な場合は記載してください。

<引用・参考文献>